

【近畿コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

片桐西小学校 野外活動支援 活動報告書

美術教育専修 2 回生 東 瑞

1. 日時：2023 年 5 月 16 日(火) 19:00～20:30
2. 場所：大和郡山市里山の駅風とんぼ
3. 参加者：特別支援教育専修 2 回生 才田 優佳
美術教育専修 2 回生 東 瑞
教育学専修 1 回生 溝部 愛心
数学教育専修 1 回生 石田 紗千佳、小田 彪雅、筒井茉啓

4. 活動内容の概要

片桐小学校の児童が野外活動の最後に行うキャンプファイヤーの支援を行った。冒頭の「蚊が飛んできた」というゲームの内容を、寸劇を交えて説明したのちに手のひらや足裏などをタッチし合い気持ちを盛り上げるスタuntsをしたり焚火の火から児童の安全を確保したりゲームに参加し交流を深めるたりした。

事前に仕事が割り振られていたわけではなかったが、児童の言動や状況を瞬時に捉え、自分の役割を見つけ出し主体的に行動することができた。

5. 参加学生の学び・感想

今回は、児童が他のグループのスタuntsのルールを知っている状況であった。私にとってそういった状況は初めてだった。児童が、他のグループのスタuntsのルールや盛り上がり方を知っていたので、円滑に進んだ。また、スタuntsをする方、参加する方の両方が、余裕を持ってスタuntsに取り組んでいたように感じた。そのためこの方法は児童にとって良かったと考える。このことから、従来の考えに囚われず、児童にとって良いものを考えることが重要だと考えた。この経験を今後活かしていきたい。

(特別支援教育専修 2 回生 才田 優佳)

私は野外活動の支援を通して2つのことを学んだ。第一に緊張は子供との間に溝を作るということだ。支援のため子供たちと短い時間で打ち解ける必要がある。私たちに向けられた警戒心を解くため親しみやすい言葉遣いや表情を心がけたい。第二に彼らが持つ火の危険の認識は低いということだ。支援中、火に飛び込んでいく子供たちの姿が印象深い。誰かのけがでキャンプを台無しにすることは絶対に避けなければならない。この2つの学びを次の機会を活かしたい。

(美術教育専修 2 回生 東 瑞)

私は今回の野外活動支援に参加して、児童の目線に立つことの大切さを学んだ。はじめはどう児童と触れ合っていけばいいのかわからなかったが、その不安を超える児童の元気にはとても励まされた。そして、キャンプファイヤーが始まってからは、児童がそのときに何を見ているのか、何を考えているのかという児童の目線に立ってみることで、楽しく児童と接することが出来た。今回の経験を通して学んだことを、今後の活動に活かしていきたい。

(数学教育専修 1 回生 石田紗千佳)

私が今回の野外活動支援で学んだことは、子供たちに一瞬で溶け込むことの難しさだ。私は最初はできる限り子供たちと関わろうと思っていたが、子供たちの元気さに圧倒され、最終的に子供たちを火から守る役目に回った。もちろん、火から子供たちを守ることはかなり重要な仕事だが、本当はもう少し子供たちと関わりたいかった。ただ、私が子供たちを火から守っていたことで、子供たちが安全に心置きなく楽しめたのは事実だと思うので、その点に関しては、子供たちの最幸の思い出を作る手助けをできて良かったと思う。

(数学教育専修 1回生 小田彪雅)

私は今回、大学生になって初めて、子どもと関わる経験をした。そこで、児童への声の掛け方の工夫の重要性を学んだ。私は練習の時は恥ずかしいという気持ちを捨てられず、あまり声を出せていなかった。しかし、実際に野外活動に参加して、途中で疲れてきた児童に対して、大きな声で盛り上げたり、自分自身が楽しんでみたりすると、その児童もやる気になって積極的にゲームに参加していた。周りの先生方も、たくさん声を出してその場を盛り上げていた。これから児童と関わる際には、今回の経験を活かした声かけができるようにしていきたい。

(数学教育専修 1回生 筒井茉啓)



キャンプファイヤー終了後の焚き火